砂川 2年連続定員割れ

4学級160人維持難しく

【砂川】道教委が27日に発表した2016年度の公立高入試の当初出願状況で、砂川高（松原秀道校長）の倍率が0・5倍と、前年（0・6倍）に続き2年連続で大幅に定員割れした。

市が支援策を強化するなど生徒確保に力を注いできたものの、17年度入試での160人の定員維持は厳しい状況となった。

同校は普通科のみで、出願者数は前年度比4人減の87人だった。教育関係者によると、近年は職業学科の人気が高まっており、今回も、生徒数の多い地元・砂川からの出願が伸び悩んだとみられ、それが倍率の低迷につながったようだ。

同校では2015年度、最終的に100人が入学。4学級160人の定員に対し1学級分（40人）以上の欠員が生じ、現1年生は3学級に減った。

16年度の募集定員は3学級120人に減る可能性があったが、砂川市などは昨年、4学級維持の要望書を道教委に提出。市内で署名活動も行い、募集定員は160人のままとなった。

同校では、体験入学を他校より約3カ月早い昨年6月に実施。近隣9市町の計17中学を精力的に訪問し、それぞれの興味にあわせて勉強ができる同校の単位制などの魅力を受験生たちにアピールしてきた。

市も四年制大学合格者に一律10万円の奨学金を支給するなど、本年度から同校への支援策を強化した。

松原校長は「残念。私たちの力不足だったかもしれない」と肩を落とした。

井上克也教育長は「1、2年で結果の出ない性質の支援策もある。市にとって大事な高校。今後も後押ししたい」と支援を続ける考えを示した。（和賀豊）